

メンバー

大塚賢一 47才

横小路利朗 53才

岸本陽介 29才

### 共同装備

ゴア3人用テント、ランタン、20m×8mmロープ、缶ビール中6本、スコップ、スノーソー

### 個人装備

山スキー装備一式、雪山装備一式、8環、スワミベルト、ピナ、食料ジフィーズ4、ラーメン2etc（各自18kg強）

2702m御前峰山頂東面（2回）・

北面（2回）・南面、

2685m大汝峰東面、

クロボコ岩、

トンビ岩、

万才谷、

南竜東斜面・・・と、山頂へ登り返す

こと5回。総合計の高低差は3480m

で滑走距離は見当つきません。

# 白山山スキー

## 2002.4/27~29



いつものように1350m地点で雪が現れ  
シール登行に切り替えてスタスタと快  
調に南竜無人小屋に到着。今回は3日  
あるのでいつも狙っていたバーンを体  
力続く限り滑りまくろうとバンバン滑  
降する。3日間とも天気に恵まれて最  
高に堪能出来きた。

前日まで、北アの唐松か、蓮華温泉  
か、中央アルプスか、と悩んでいたあげ  
く急遽、白山のゲートが別当まで開通  
したとメールが来たために、今年は雪  
少なめで半ばあきらめていた白山に迷  
わず決める。今回は予備日が一日ある  
ので今まで滑りたかった斜面を心おき  
なく滑る。また南竜無人小屋も出てい  
たのでここをベースにしたのが最高に  
よかった。

4/27 快晴

9:10 別当出合P着 植田氏と遭遇

すがすがしい朝である、しかしこのGWに市ノ瀬のゲートが開いているとは何年ぶりだろう？。いつもなら路上に雪も無いのに必ず堅くゲートが閉まっているのにありがたいものである。ドン詰まりの路上に駐車して装備変更をしていると、後ろからワゴン車が突っ込んで来てUターンをすると「オ～イ、ケンちゃ～ん」、「あれ～っ！、植田さんやんか～」・・・と、お互いに「何でこんなところにいるのや？」。ホントに奇遇な出会いである。彼は福井の友達（原田さん）と来ていた。今朝まで陽介と横さんもてっきり中央アルプスとっていたのだから、無理もない。

9:50 1260m 別当出合スタート  
スキー担ぎ

2週間早いのにいつもと同じくらいの雪量であろう、やはり雪が少ないようだ。

初めての高山での山スキーに横さんは少々緊張気味である。無事に帰れることを祈りますと・・・。

10:48 1355m 装備変更シール

二つ目の林道も雪に埋もれて真下のトイレ小屋も1/3は雪に隠れている、この時点ではまだ昨年より雪が多いようだ。帰りはうまくルートを外さなけれ



甚の助の屋根でくつろぐ横さん

ばここまで滑れそうだ。虫もまだいないようだ。

**12:13 1975 m 甚の助小屋到着**

陽介はどうもシール歩きが苦手なようでどんどん離れてしまっ見えなくなってしまう。「陽介大丈夫かなあ」と横さんは心配そうであるが、「このルートは尾根さえ外れなかったらこの小屋までたどり着くようになってるから大丈夫！」と私の意見に半ばあきれ顔だ。

天気は極上で無風ときており、甚の助小屋の屋根で一休みをしていると、待つこと30分結局陽介はいつの間にかスキーをザック固定して植田さん達と合流して登ってきた。



担ぎで頑張る3人

**13:58 エコーライン直下 滑降**

植田さん達は一休みを入れずにそのまま壺足で南竜小屋のほうへ消えて行ってしまった、大した馬力である。ややこしいトラバースを済ましエコーライン直下にさしかかると南竜小屋が姿を現した。やはり雪が少ない、2年前に雪洞を掘ったときよりも3mは少ないだろう、あの時は無人小屋が隠れていたのだから・・・。

ここから板をはきトラバース気味に小屋まで一直線だ！。

**14:35 2060 m 南竜無人小屋着 大休止**

テント装備を持っているが小屋が開放しているので快適な小屋泊に決め込む。

入り口は当然雪の中なので窓からの進入である、よってこの小屋は冷

蔵庫と化しているの太陽が出て風が無かったら外のほうが断然暖かい。

先客は、3人パーティー、それと植田氏2名だけである。この広々と小屋には室内トイレも設置してあるので申しぶんない。

**植田さん達は昼食を済ませて早々にトンビ岩方面に登って行った  
15:40 東斜面登行 装備変更アイゼン**

大休止のラーメンタイムも済んだし、一本滑りますか？、の一言で早速アイゼンを付けてトンビ岩や油坂は明日にとっておこうと、植田さん達とは逆の南東のピーク 2244 m 目指して登っていく。

2000m以上の雪山は初めての横さんは素晴らしい天気恵まれて感無量のような、本当にさまざまな山々が雪化粧をほどこした姿は初めてでなくともいつも感動的である。

南竜のテントサイトでは3張りほどのカラフルなテントが見える(テントサイトは山頂直下が最高やで～)

トンビ岩から植田さん達が奇声を上げて滑っているのが見える、広大は斜面にゴマ粒のようだ。

**16:24 2244 m ピーク**

ここのピークは夏はブッシュで登れないのだがそれらが全て雪の下であるので広々としている。ここから見える白水湖はものすごく大きく見える。また南東の山々のカールも素晴らしく落ち込んでいる。しかし今いる所は10mくらいの切れ立った雪尻上で長いは無用である。ここから地獄谷方面に滑

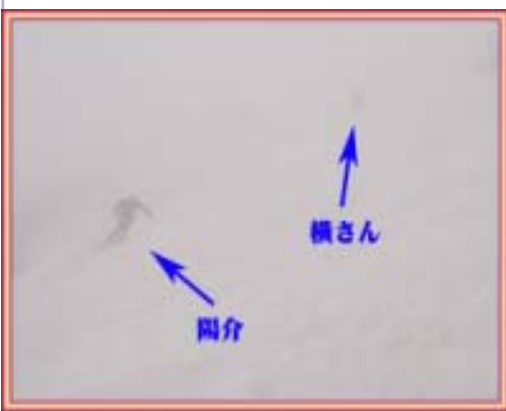


2244 m ピークにて

降しても素晴らしいだろう。

**16:42 滑降開始**

なんとまずいことに今まで晴れ渡っていたのにガスが立ちこめてきた。植田さん達もどこにいるのかガスの中である、これだから雪山は



ガス中を滑降

油断が出来ない。

コンパスを合わせて南竜小屋方面に滑降開始である。私が先に滑ってビデオを構えているとガスの中から陽介と横さんが現れてきた。横さんのフリートレックも慣れたものである。

### 16:05 晩餐会

狭いテントと違いゆったりとしたこの無人小屋は最高の空間である。早々に植田さん達とキャンプをして晩餐会に興じる。横さんはこの日のためにハムステーキやウインナーを持参してくれていて酒の肴には事欠かない。

私は肴に3/9の氷ノ山、3/26の御嶽山の山スキーDVを編集して持ってきていたので小屋内で3.5インチ画面で5人でビデオ鑑賞をして最高の夜を迎えた。



小屋内で晩餐会

## 28日 快晴

### 5:00 起床 アイゼン

他のメンバーがまだ眠っている中、最高の穂高連峰を見ようと一人でトンビ岩から山頂に向けて登っていく。でっかい乗鞍岳が雲海に浮遊している姿はなんとも言いようのない素晴らしき光景である。しかし穂高連峰は残念ながら雲海と一緒に雲の中である。別山方面もガスがはびこってきて登ってきたルートもガス包まれてしまった。

### 7:00 2600m 御前峰山頂直下

ここから一端、ハイマツを横切らねばならないのでここから滑降することにする。下のほうには横さんも上がってきている。朝一番と



山頂直下より滑降の私

あってカリカリで飛ぶようにカッ飛ばしてアッという間に横さんと合流。

### 7:32 小屋着

途中で植田さん達と陽介に出会う。「山頂で待っているから」と言って登って行った。

小屋に着く途中でガスに覆われて視界が10mほどになり、横さんともはぐれてしまい大丈夫だ

ろうか、と心配だったが小さいテントと違いデカイ小屋が3棟も建っているからと思い、先に帰って朝食をとっていた。20分ほどたったらやっと小屋に戻ってきた「ガスってとまどってしまった、少し立ち止



別山を後に横さん

まっていたら晴れてきたので方向が分かった」と言っていた。シラビソ帯を一つ間違えて滑ったようだ。「同じコースをピストンで滑る場合は天候の良いときでも何か分かりやすい物を自分なりに目印にして登り、コンパスを合わすことが大事なんや」と話しをする。

### 8:45 再び山頂へ

彼らとは少し時間が食い違ったが、途中で出合うだろうと再び山頂に向けて2人で出発した。しかし、どこを滑っているのか皆目出合わなかった。彼らも今日も無人小屋に泊まるのだから、思い思いに滑降して晩餐会の話題にしようとして・・・。

### 11:09 2702m 御前峰山頂着

山頂から双眼鏡で彼らを捜すが一向に見あたらない、たぶん油阪へ



北面を滑降する横さん

行ったのだろう。

11:45 紺屋池方面へ滑降

我々は夏道コースである紺屋池方面の急斜面を滑降する。40度は超えているだろう面白いほどの急斜面だ、横さんは始めはビビっていたが滑り込むとうまいもので、「もう一回滑りたいなあ」と言うのでそれじゃあとアイゼンを付けて再

び登り詰めた。途中の急斜面でピックスティックのない彼にロープを出そうとしたが何とか無事に登ってきた。「このストックはやはり必要やなあ」と、しかし2本で25000円は高いが命には替えられない。

13:08 2684m 大汝峰山頂着 アイゼン 大休止



大汝峰より

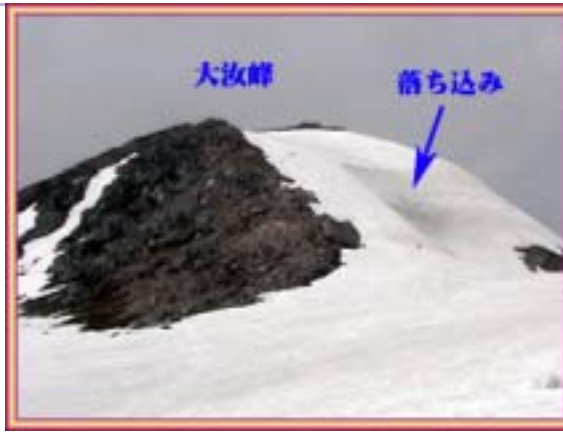
今度は大汝峰から滑降しようとアイゼン・スキー引っ張りで翠ヶ池の上をトラバースして大汝の東の急斜面を直登する。ここでも横さんは「ピックスティックがほしい」と嘆いていた。

山頂からはまだ天気が不安定らしくガスがすごい速

さで飛んでいる。また七倉山方面の釈迦新道コースからガスが沸いてきている、あっちの景色は素晴らしいのに残念である。山頂付近は大きなクレパスだらけでままならない。

13:45 2684m 大汝峰山頂より滑降

ここから東斜面に突っ込んで小白水谷への大滑降は地図上でも4km以上はあるので非常にダイナミックだろう(次回の楽しみにとってお



こう)。

昼食をとって大休止をしているうちにガスも晴れてきて七倉山方面の釈迦新道コースが素晴らしく見えだしてきた。この景色を見ながら、夏のコースのお池めぐりコースを滑降して室堂を經由して、再び御前峰山頂に登り返すことにする。

大汝峰からの下が見えない斜

面に飛び込んでいくのはまるでパラグライダーでストールしたみたいだった。この池めぐりコースは非常に大きく長い緩斜面なので横さんも大変気に入ったようだ。しかしここから再び御前峰山頂への登り返しはつらかった。私はギリギリまでシール無しでの得意のヒールフリーで登り詰めたが横さんは早々にアイゼンに切り替えていた。

14:53 2702m 御前峰山頂着

ガスもすっかり晴れ渡り遠く東方面に穂高連峰がうっすらと見えている。

今度は御前峰の急な東斜面に滑り込んで、トラバース気味に室堂を經由してエコーラインを滑降することにする。

13:15 2702m 御前峰山頂より東斜面滑降

素晴らしい落ち込みである。遙か下に見える転法輪谷に滑り込んでいるパーティーもいるが我々はもうあそこまで滑って登り返す体力が無い。いくつものクレパスを渡りながら滑降し室堂を經由してエコーライン方面に向かった。





### 15:42 万才谷滑降

途中で万才谷を覗き込むと「これはイケるぞ！」と兼ねてから加藤氏が格好よく滑っていたのを思い出して「横さん、大丈夫や、ここに突っ込むワ！」と言って小さいクレパスを横切り飛びこんでいった。程良く滑りやすい雪で最高に気分爽快



朝はこの3日間で一番いい天気だ！、360度大パノラマである。

### 9:46 正面斜面滑降

今日はザック無しで滑れるのはこの斜面だけである。雪も多少硬いがルンルンに滑降だ。

### 10:22 クロボコ斜面滑降

重いザックを背負い弥陀ヶ原を經由して、さあいよいよ今日のメインである急斜面のクロボコだ。



やはり横さんはザックの重みで昨日とは打って変わってのバランスである、右に左に後ろに振られてついには地肌に突っ込んでしまった。横さん「ザック背負ったらメチャメチャ難しいなあ」、私「これで滑れなければ山スキーヤーじゃない、やはりまだまだ練習が必要ですね」、陽介「大塚さんは背負っても背負ってなくても一緒なのは何故？」

だった。横さんも上でためらっていたが、私が「この雪なら大丈夫や！」と言ったのがきっかけで一気に滑り込んできた「すご〜い！」。横さん曰く「大塚さんはライオンを谷に落とすようにどこでも連れていく」、「でもゲレンデスキーとともに一年生がここまで滑るのやから、未恐ろしいなあ」と私。

### 16:10 小屋着 晚餐会

「今日一日ものすごい遊んだでえ」と2人で報告。3人はやはりあれから油阪を滑降して満足感十分であった。陽介が「まだ時間あるから行ってきたら〜」、「いやもうヘトヘトです」とさすがに私と横さんも充実していた(次回にとっておこう)。夜の晚餐会は他の山スキーヤーもいて我々の行動力に驚いていた。

## 29日 快晴

### 5:00 起床

朝食を済ませて早々に下山予定だったが、今朝は雲一つないドピーカン日和りに恵まれたのでこのまま帰るのはもったいないと思い、朝食を済ませてザックをパッキングして再びトンビ岩に登り詰めることにした。植田さん達とは帰路も遠いのでここでお別れとなる。

### 9:25 2702m 御前峰山頂着

室堂にザックをデポして空身で正面(南南西)をシールで登る。今



### 10:54 甚の助小屋経由

横さんはバテ気味で少々戦意抄出であったがとにかく下まで滑らねばならないので頑張るしかない、「頑張れ〜」、この辺りはビデオのほうがりアルに演出



ブッシュ内を滑降の横さん

してくれている。

### 11:31 ブッシュ経由

50cmほどの間で深さ1mの雪切れをヒヤヒヤしながら渡る。しかし横さんの短板では無理なので遠巻きをしてもうがこれがまたすごいブッシュで右往左往だ。氷ノ山や白山の取り付きはいつもである。

### 11:45 雪切れ

一つ隣の沢に滑り込んでしまい最後はとんでもない沢を降りるハメになってしまった。スキーザック固定で木の枝をつかんで大変である。よっぽどロープを出そうかと思ったくらいである。横さんはここが一番恐かったと言っていた(ごめんね(^\_^))



最後は沢下り

### 12:15 別当出合着

素晴らしい天候を与えてくれた白山に感謝、そしてカンパ〜イ!

### PS.

今回を振り返って3人のコメント

陽介>>>ちょっと今回は体力不足でした、28日は付いて行っていたら足を引っ張ったかもしれません、後半の北アルプスは頑張るゾ〜。

横さん>>ものすごくよく滑ったけれど、ああ、ホントに疲れた。最後の沢下りは谷に落ちるて死ぬかと思ったワ。

私>>>本当に3日間とも快晴の中でよく遊べて1日を滑降重視にしたのは正解であった、後半の北アルプスも楽しみだ!。

